



牧羊館50周年 記念誌



創設者 米澤克己宗師師範 略歴

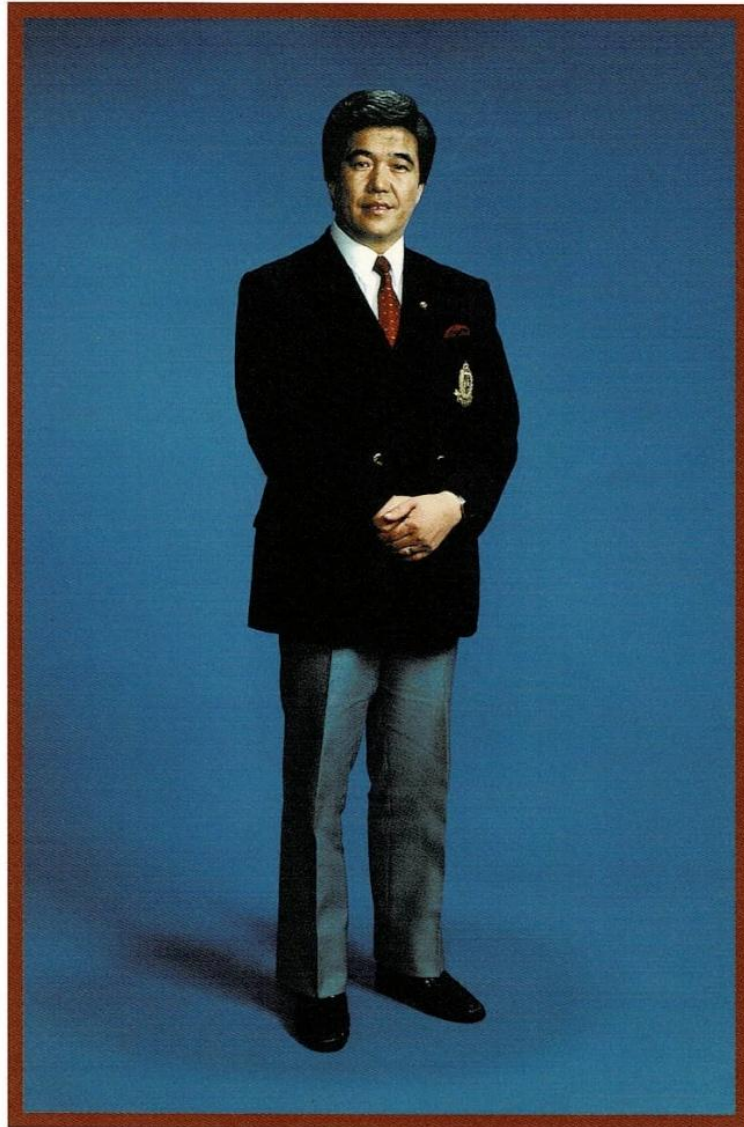


1937～1998

創設者 大東流合気柔術 米澤克己宗師師範

- 1937年 室蘭市御前水町に米澤家次男として出生する。
- 1964年 室蘭市鶴ヶ崎中学校英語教師として赴任し柔道部顧問となる。
- 1965年 大東流合気柔術堀川幸道師範に出会い大東流合気柔術幸道会入門する。
- 1974年 日本EDI(教育開発機構)リーダーとして渡米後、董天昭(Tim Tung)師範と出会う。
- 1975年 室蘭市白鳥台に個人道場、牧羊館を開設する。
- 1988年 ミュンヘン日本補習校初代文部省派遣講師として赴任。世界に発信している武道誌にてドイツ赴任を知った中島師範の訪問を受ける。
- 1995年 大東流合気柔術牧羊館として独立。アメリカ、ドイツに支部を持つ。
- 1997年 洞爺湖温泉中学校長として退職し牧羊館の指導に専念する。
- 1997年 5月に癌の告知を受ける。
- 1998年 咽頭癌により11月27日に死去(享年61歳)。

牧羊館名誉顧問 森清光 略歴



1947～1998

牧羊館名誉顧問 森清光

1947年 室蘭市輪西の森旅館長男として出生する。

1960年 室蘭大沢小学校6年米澤学級で新任の宗師に出会う。以来、ユニークな熱血教師の下次々に誕生する米澤学級グループの兄貴として年代を超えた総まとめ役の活躍をする。

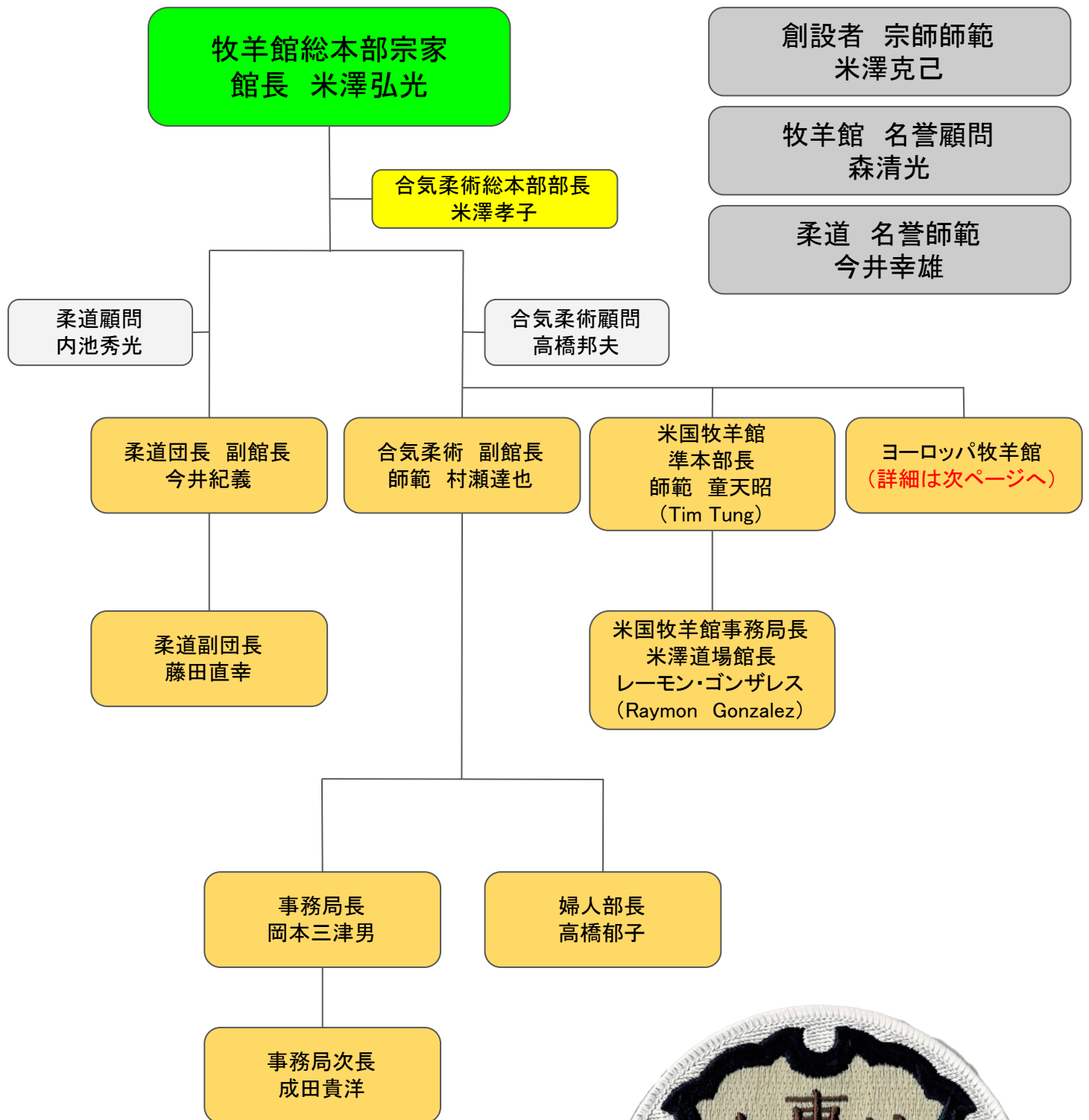
1975年 牧羊館新築、道場設立と牧羊館顧問として尽力すると共に、設立道場に輩下を引き連れて堀川幸道名人の指導を受ける。

1987年 国会議員の秘書を経て39歳、一番若手の室蘭市議会議員として初当選し活躍する。

1997年 三期目の当選を果たし、室蘭市議会史上1番の若さで議長に就任する。宗師咽喉癌末期を知り、週末ごとに病院を出て最後の使命の如く道場で指導に当たる宗師の技の継承を願い更なる合気柔術の増強に努める。

1998年 5月1日不慮の事故により死去(享年50歳)

牧羊館組織図



牧羊館組織図(ヨーロッパ準本部)



ヨーロッパ牧羊館
準本部長
師範 中島 大志郎

準本部長代理
ダニエル・トマセヴィッチ
(Danijel Tomasevic)

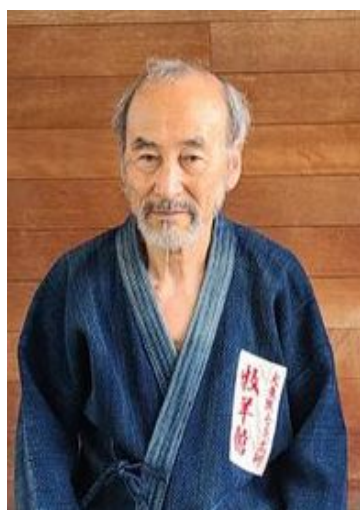


ドイツ支部ホームページ
<https://www.shinkiryu.de/daitoryu/de/>

ドイツ総支部長
クラウディア・ブーダー
(Claudia Buder)

スロベニア支部長
ウラディミール・カイザー
(Vladimir kaiser)

ルーマニア支部長
ホアゲア・テオドル・オヴィディウ
(Hoaghea Teodor Ovidiu)



ヨーロッパ牧羊館
準本部長
師範 中島 大志郎



ドイツ総支部長
クラウディア・ブーダー
(Claudia Buder)



スロベニア支部長
ウラディミール・カイザー
(Vladimir kaiser)



ルーマニア支部長
ホアゲア・テオドル・オヴィディウ
(Hoaghea Teodor Ovidiu)

牧羊館50周年 祝辞 室蘭市長 青山 剛

記念すべき創立50周年に際し、心より祝意を表するとともに、皆様の日々のたゆまぬご努力に深く敬意を表します。



牧羊館は1975年、故米澤克己宗師師範の地域と結びついた道場への思いにより、白鳥台に開設されて以来、柔道のみならず、大東流合気柔術の精神を伝える拠点として地域に根ざした活動を精力的に行ってこられました。故宗師師範が培われた礼節や伝統、そして互いを尊重する武道の心は、日々の稽古の中で世代を超えて脈々と次世代へと受け継がれ、青少年の健全な育成に大きく寄与しておられると確信しております。

柔道はスポーツの領域のみに留まらず、礼節と伝統が息づく日本武道の精神そのものです。牧羊館の皆様は、技術指導に加え、若い世代に人間性や相手を敬う心を育むという、地域社会と深く結びつく活動を担ってこられたことに、心より御礼申し上げます。また、国内に留まらずアメリカ、ドイツなどの海外支部との交流により本市の国際的な知名度向上にも大いにご貢献いただいたことに対し、深く感謝申し上げます。

牧羊館がこれまで培ってきた歴史と伝統に深い感銘を受けるとともに、今後も変わらぬ熱意で日本武道の素晴らしさを後世へと伝承し、地域社会の発展に寄与されることを心より願っております。

これからも牧羊館がさらなる飛躍を遂げられますよう、そして、皆様の健康とご多幸を祈念し、祝辞とさせていただきます。



muroran

室蘭が好き。みんなで創る、住み続けたいまち

牧羊館50周年を迎えて 館長 米澤弘光



1975年6月創始者米澤克己によって牧羊館が誕生しました。

自宅と併設して、白鳥台の地域に根付いた息の長い道場を夢見ていたのです。

教師としての天職を喜びとしていたので、心と体の成長を促す武道は、道場を通してその教育が実現されることを確信していたのです。

「牧羊館」は聖書からの命名で、「忍耐」は「練達」を生み出し「練達」は「希望」を生み出す。が道場に掲げられている目標です。

50年、創始者も指導者もその仕事を十分に果たして天に召されました。

そして、今現在ここに集っている私たちの手で牧羊館が継続しています。

宗師の最後の言葉
「残るものは、残る」

その言葉の意味のある間、牧羊館の活動が皆様の手によって支えられて行くのでしょう。

牧羊館 (BOKUYOUKAN)

Bible

PSALM 23:1.2

The LOAD is my shepherd.

I shall not want.

He leads me beside still waters.

聖書

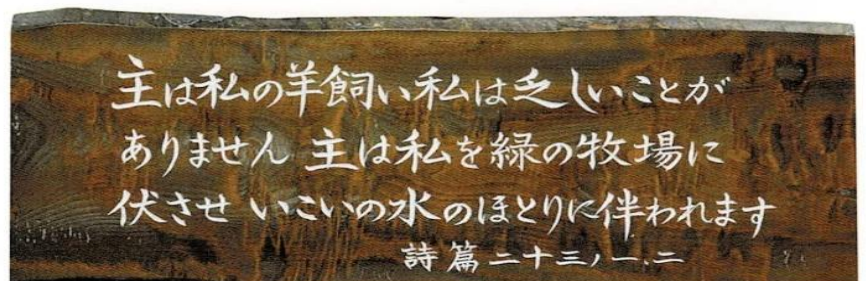
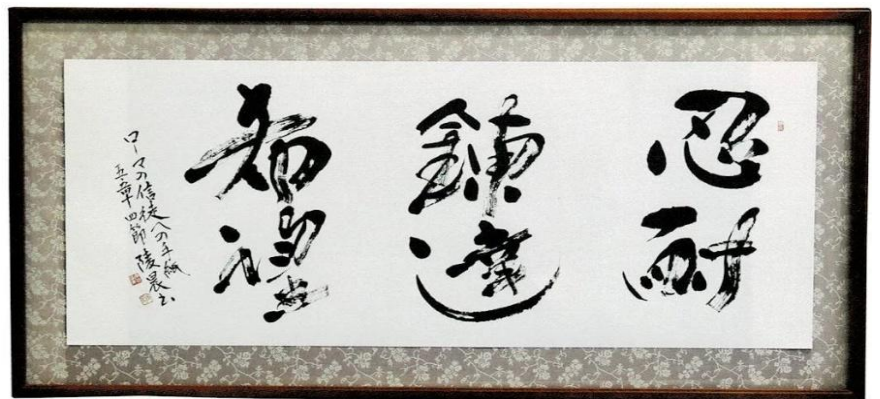
主は私の羊飼い。

私には乏しい事は無い

主は私を緑の牧場に伏させ

憩いの汀にともなわれる。

以上は、牧羊館命名の由来です。



牧羊館50周年を迎えて 師範 村瀬達也

牧羊館が50周年を迎えるにあたり、一門の一員としてこの節目を迎えられることを大変うれしく思います。

私が牧羊館に入門したのは1981年のことでした。当時は教員採用試験に向けて勉強に励んでいましたが、運動不足解消のためにと軽い気持ちで門を叩いたのが始まりです。それから44年の歳月が流れました。その間、転勤などで休んでいた時期もありましたが今日まで牧羊館の一員として歩んできました。

米澤先生が幸道会から独立され牧羊館の宗氏師範となられた時、私も再び招集されました。本部道場は活気に満ち門下生が技を磨く場として発展しました。1998年に米澤先生が咽頭癌でご逝去された後、今後の指導体制をどのように進めていくべきかという課題に直面しました。私に米澤先生の代わりはできないが、地道に鍛錬を重ねることだと自分に言い聞かせていました。米澤弘光宗家をはじめ、門下生一同と力を合わせ、また、アメリカ支部のティム師範、ドイツ支部の中島師範に指導と助言を仰ぎながら本部道場の灯を絶やさぬよう尽力してきました。

米澤先生のお名前の「克己」(かつみ)は自分の欲望や感情、弱さなどを理性の力で押さえ、克服することを意味し、まさに合気の精神そのものと言えます。これからも牧羊館本部の伝統と精神を守り次世代へとつなげていくために一丸となって歩みを続けていきます。50周年という節目に立ち、改めてこれまでの歩みを振り返りながら、更なる発展を目指します。



創立50周年記念に寄せて

牧羊館50周年おめでとうございます。

10年前に皆様と共に牧羊館40周年記念を祝った時には、50周年はまだ随分先のように思われました。しかし、今回50周年を迎えて振り返ってみますと、40周年記念は、ほんの2-3年前の出来事であったかのように思われます。まさに光陰矢の如しです。

この間弘光宗家、孝子総本部長、村瀬師範、今井紀義柔道部長を中心に、顧問の皆様、また全ての会員とそこそご家族の皆様、また過去を遡れば、今井幸雄先生や森清光氏のご尽力で、米澤克己宗師師範の理想と精神を守って頂きました。それに対し心からの敬意を表明させていただきます。



大東流合気柔術牧羊館
ヨーロッパ準本部長
中島ミハエル大志郎

この克己先生の理想と精神がどれほど重要であるかは、今の世界の状況を見れば直ぐにわかります。キリスト教のみならず、仏教の教えや武道精神の伝統が、まるで無かったかの如き自己中心主義、利己主義、物質主義そして暴力容認の風潮が、国や世界の指導者たるべき人々によって、当たり前のように実行されています。

それにうんざりするばかりでなく、悲観したり投げやりになったりする傾向も見られますが、我々はそうであってはならないでしょう。この世に徘徊する悪霊に戦うことなく降参するのでは、あまりにも情けない。せめて一矢を報いる気構えが求められます。

しかしそれは主に外的な戦いではなく、愛に貫かれた不屈の精神のなす業であるべきでしょう。我々一人一人は弱い人間で影響力も極小ですが、互いに力を合わせて、また世界の根源である神的な愛の力に支えられて、立派な戦いを全うすることができるでしょう。

私個人について言及することをお許し願えば、やはり80歳を超えてから、体調が一際低下していますが、ヨーロッパ準本部は後継者候補としてダニエル・トマセヴィッチを推薦し、後続の体制も整いつつあります。また、スロヴェニアとルーマニアの支部も内容を堅固なものに整えつつあります。

アメリカ準本部もティム師範が後継の準備を整えつつありますから、お互いに手を結び合って、牧羊館が末長く発展していくことを希望しております。



創立50周年記念に寄せて

50周年心よりお慶び申し上げます。

米澤克己宗師師範は、早くも1970年代初頭から戦後における大東流合気柔術の第一伝道者として、北米各地で数えきれない合気セミナーを開催され、大きな反響を受けられました。(世界的な武道雑誌合気ニュースより報道された)

先生の教えはどちらかと云うと、伝統のある大東流武道を現代的なセンスで海外、主としてドイツとアメリカに合気柔術を広げてこられました。ちなみに先生も、この合気の教えを通して、常に精神面を重んじて人々の人間成長の助けを計られたのであります。

私は我が牧羊館に縁を結んだのは、遑っての1980年の夏でした。

当時、先生は丁度ニューヨークでセミナーを開催しておりましたので、参加してみたところ、先生の見事な技に驚きました。先生の技で、あの巨大なアメリカ人を軽く速く、いとも簡単に倒したのでした。本当に冴えた技でした。私は元々ある程度、太極拳、八卦掌と形意拳の基礎を保っている者ですが(合気柔術に類似するものが一杯ある)、しかし、先生の素晴らしい技とは比べられないものでした。

よく研究すると解るように、合気柔術の原理は主に物理の力学にそって、上げ下げ、横前後、円心運動、方向を変え、強力を逸らし、そして逆関節閉じ等々コンビ技の運用でしょう。

勿論これらの技を上達するのに長年の修行が必要です。

それ以来、合気柔術に惚れてわが一生の修行にしました。

恩師の教えには感謝し切れない気持ちで一杯です。



大東流合気柔術牧羊館
米国準本部長
董天昭(Tim Tung)

この度は、牧羊館の50周年記念の集いに参加させていただきます事を大変光栄に思っております。

長い間ご無沙汰しておりました友人の皆様方に久しぶりにお目にかかれることを心より楽しみにしております。米澤克己総師範の教えを胸に、一生懸命に鍛錬してまた新しい思い出を思い出の皆様と共に作ってまいりたいです。米澤弘光宗家と奥様には特に感謝の気持ちをお伝えしたいと思っております。

神様のご加護のもと、皆が無事にこのお祝いの集いを終えることが出来ます様に。

米国牧羊館事務局長
米澤道場館長
レーモン・ゴンザレス
(Raymon Gonzalez)



牧羊館の沿革

1975年

室蘭市白鳥台に個人道場『牧羊館』を住居と併設し新築する。

堀川幸道名人の音頭により各支部より駆けつけ道場開きを行う。

渡米し3回目のセミナーを北米各地で開催する。

1976年

第1回目となる鏡開きを開催する。

1977年

渡米し5回目のセミナーを北米各地で開催するも反響が大きく内弟子ダンとマテイと共にTV出演し合気柔術の技を披露する。

1978年

渡米し6回目のセミナー北米各地で開催する。

世界的な有名な武道雑誌『合気ニュース』ラブレット氏の道場で技を披露する。

1980年

米澤克己館長の師匠でもある堀川幸道名人死去(享年88歳)。

1984年

北米支部10周年記念をカリフォルニア・サンルイオビスポで祝う。

1985年

牧羊館10周年記念事業を祝う。

1987年

渡米し第15回目のセミナーを北米各地で開催する。

1988年

ミュンヘン日本語補習学校初代文部省派遣教師として赴任する。

現中島師範(神気流道場館長)の訪問を受け技を伝授する。

1989年

ミュンヘン日本人会にて大東流合気柔術を披露したのをきっかけにミュンヘン支部設立。

1990年

ミュンヘン日本人会にて米澤館長と現中島師範(ドイツ支部長)と現董師範(アメリカ支部長)の共演により演武を披露する。

1992年

洞爺中学校に赴任し洞爺支部を立上げセミナーを開催し演武を披露する。

1993年

カナダにて大東流合気柔術を披露する。

1994年

アメリカ支部20周年記念をカリフォルニア・サンルイスオビスポで祝う。

1995年

牧羊館20周年を祝う。

大東流合気柔術幸道会より大東流合気柔術牧羊館として独立し宗師となる。

ドイツ日本大使館に現中島師範(ドイツ支部長)と共に招待を受ける。

牧羊館の沿革

1996年

現米澤弘光館長と共に渡米しアメリカ支部でセミナーを開催する。

1997年

宗師が咽喉がんを発病するがドイツより中島師範が見舞に来日し特別個人指導を行う。

1998年

5月1日牧羊館創設時から尽力した森清光顧問が不慮の事故で死去(享年50歳)。

10月30日弟子に最後の指導を行う。米澤宗師死去(享年61歳)。

米澤克己宗師の遺体の前で弟子たちが最後の技の披露を行う。

1999年

第24回鏡開きを行いドイツ支部より中島師範が来日し米澤弘光館長を宗家として認証する。

2000年

第25回鏡開きにアメリカ支部より6名を迎え、昇段審査を行いアメリカ支部準本部長の董天昭氏を大東流合気柔術牧羊館師範に認証しセミナーと歓迎パーティを行う。

ドイツ支部のセミナーに日本総本部の鳥海氏が参加し技を披露する。

2003年

第25回鏡開きにヨーロッパ準部長の中島大志郎氏を迎え、大東流合気柔術牧羊館師範を認証しセミナーと歓迎パーティを行う。

2005年

牧羊館30周年記念祝典にアメリカ準本部より17名、ヨーロッパ準本部より16名が参加し4泊5日の日程で合同セミナー及び祝賀会を洞爺天翔で行う。

2006年

2月4日いつも柔道の子供たちを優しく見守ってくれてた村瀬長三郎顧問死去(享年84歳)。

2008年

室蘭市青少年表彰 青少年団体活動者賞を受ける。

2012年

7月21～22日ドイツ支部より中島師範来日しセミナーを開催。

柔道コーチ平勝彦先生死去(享年64歳)。

2014年

1月12日第40回牧羊館鏡開きに今井幸雄先生、道着を着て最後まで参加。

1月25日牧羊館館長代理今井幸雄先生死去(享年71歳)。

2015年

牧羊館40周年記念祝典にアメリカ準本部より6名、ヨーロッパ準本部より27名が参加し4泊5日の日程で合同セミナー及び祝賀会を洞爺サンパレスで行う。

2017年

室蘭市の地域のラジオ局に、牧羊館の数名が出演

2019年

ドイツ人留学生を招いてのセミナー

2020年

村瀬達也氏が師範となる。

2024年

コロナ禍が落ち着き、中島師範によるセミナーが6年振りに牧羊館道場で開催。

米澤克己宗師が過去に残した文章

牧羊館10周年を迎えて

私が白鳥台に来て牧羊館を開いて早10年目になりました。“光陰矢の如し”アメリカでは“特急が弾丸のように走る”とありますが、いずれも時の流れの早さと、成長期に価値のあるものに挑戦し自分自身を磨くための時の貴重さを示唆しているのであります。

この10年間牧羊館にとっては光陰矢の如しとは言えないほどの沢山の人々の出会いがあり、出来事がありました。ここまで続けてこられたのはしっかりと3人の先生たちと、大長 殖栗先生の出会いがあったからです。

河上先生は職場では重責にありながら、道場の存立のために献身的に奉仕され、さらに対外的なつながりのために東奔西走して下されました。

数年遅れて、今井先生が補助して下さり木目細かな指導が出来るようになりました。今井先生が入院中の時、子供たちのために顔を見せ指導して下さいました。またピンチヒッターとして、今井夫人が3人の先生が来るまでつないで下さったことは忘れることは出来ません。涙が出る位うれしく思い、チームワークという言葉がこのためにあることを教えられました。

本当に有難う。そして力に満ちあふれた平先生がお手伝いして下さいようになり、今まで教えられた技と精神力に、更にハードトレーニングが積み重ねられ、霊肉共につづけてきた子供たちには大きな飛躍がみられました。

勿論試合ごとに声の限りに迫力のある声援をおくって下さった戸田夫妻はじめ、父母の皆様の力強い御支援があったことは忘れることは出来ません。

それらのことがあって今日の牧羊館をつくりあげました。

1976年 道場を開いてもまもなく、アメリカのカルホルニアから、二人の青年が修業にまいりました。二人が初めて迎える北海道の厳冬 貧乏な我家の客間にはストーブがついていませんでした。私は彼等に「ストーブを買入れますか?」と問いかけると、合理主義者のアメリカ人ならだれでも「ありがとう(Thank you)」というのですが「私たちは、あなたから日本の精神の訓練を受けています。今のところ忍耐が出来ますので必要ありません。」30才をすぎた今、その中の一人は有名なハーバード大学で博士課程に学び、その大学の講師をしています。まもなく教授になることでしょう。

私が今年、カナダへ行く途中でオークランド空港で私を待ち、私好みの差し入れをし、彼曰く「博士になったら恩返しをします。」と言って、握手をしてカナダ行を見送ってくれました。自分のアパートから何時間もかかるところなのに…毎年、渡米のたびに私に会いに来る彼… 彼等、日本の義理人情を日本人以上に学び理解をしています。

- ・その他、数限りない友だちが、それぞれが一斗に余る汗を残した道場…
- ・カー杯応援してくれた父母の声がレコーディングされている道場…
- ・黒帯が次から次と誕生した道場…
- ・日胆地区大会のチャンピオンが誕生した道場…
- ・体の弱い子どもが、先生たちの指導のおかげでたくましく成長させてくれた道場(定期的な体力テストで)...
- ・これから、世界の友だちがやって来る道場…

訓練し耐え、継続して学ぶことによって、その中で牧羊館の目標である、忍耐…錬達…希望の意味がわかって来ることでしょう。

その時、君たちは必ずや、本当の力が身につき、人類のために役立つ人となることでしょう。

1985年 1 月 13 日

大東流合気柔術・幸道会

室蘭支部長 牧羊館館長

米澤克己

米澤克己宗師が過去に残した文章

20年の歴史を創り出した人々に

牧羊館館長 米澤 克己

昭和50年6月の牧羊館開設から満20年を迎える事が出来ました。

開設当時盛んだった幾つかの道場のほとんどが閉館された今日まで、多年に渡る館長不在の中で牧羊館が存続しておりますのは、河上先生・今井先生ご家族を始めとする指導者の方々と母集団のご父母の皆様、及びこの牧羊館で育ってきた先輩諸氏で引き起こしたさまに奇跡と言えると思います。心より御礼申し上げます。

本当にご苦労さまでした。

ありがとうございます。

思い起こしますと、昭和50年白鳥台に住む友人の勧めで、土地を買い家を建てたのは、大沢町に自宅を新築してから3年も経っていない時でした。どうせ又建てるのならと、私の子供の頃からの夢でありました道場を付設する事にしました。中学生の時、柔道をするのに1時間もかけて道場に通わなければならなかった苦労がよみがえったのかも知れません。

牧羊館の命名は、戸枝EDI(国際教育開発)理事長によるもので、『羊の群れを守り緑の牧場として逞しく養い育てる場所』という願いを込めたものです。名の通り多くの子供達がこの道場で鍛えられ逞しい大人になって行きました。6月8日、牧羊館20周年記念の撮影のために洞爺湖牧羊館支部道場からの13名と共にここに集まりました。いまは大きく逞しくなった紀義君をはじめとして藤田君、柿本君など先輩たちが、後輩の指導に当たっていました。幼かった日の彼等を思いだし感慨無量でした。

20年間の約半分近くを館長が海外や転勤で留守にする中で、この道場が存続して参りました。私の力だけではとくに閉館していたことでしょう。先に申しあげましたように、河上先生、今井先生が家族をあげて道場を守ってくれました。体調を崩された時、入院先の病院から出向いて稽古に当たってくれたこともありました。寒中には奥さんが鍵を開け、ストーブで道場を暖めて準備してくれたりしました。その他、平先生、築田先生や他界されました大長先生・植栗先生、等々多くの指導者に恵まれ、いつでも力強い絶大な声援を送ってくれた戸田さんなど母集団に支えられ守られてこの牧羊館が現在ここに道場としての使命を果たし続けられたのでした。

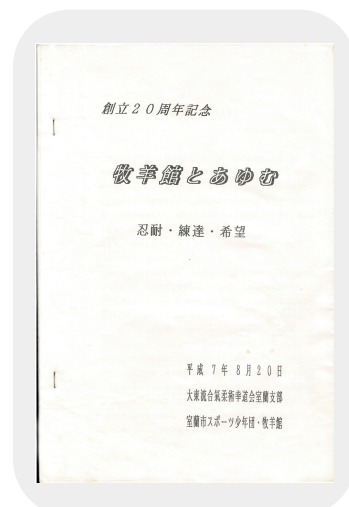
牧羊館20年の歴史の中で喜びや無念な思いを共にした子供達、華々しく活躍した子供達、協力を惜しまなかった親たち、大きく支えてくれた地域の人々を感謝をもって思い起こします。さらに、こんな小さな道場ですが、世界中にこの牧羊館で学び、牧羊館を武道の故郷にしている沢山の人達がいます。そしていつか牧羊館を訪れる事を夢見て武道に励んでいる人達もいます。

今、日本は国際社会の中での活躍が期待されています。牧羊館で伝統ある武道の精神と技を学んだ人々が、忍耐と練達を通して得た確かな希望を持って、間近に来る21世紀の主役としてそれぞれの人生を豊かに切り開いていってほしいと願って止みません。

これからの牧羊館は、新しい時代を支える人たちが育つ場として、ここで育った先輩たちによってさらに受け継がれて行くことと確信しております。



牧羊館 夏期合宿 (平成元年7月30日より8月1日)



米澤克己宗師が過去に残した文章

『堀川先生を語る』

大東流合気柔術師範
牧羊館館長 米澤克己

私と堀川先生との出会いは昭和40年堀川先生が全道を教授して回っていた折の室蘭市の北武館においてでありました。

私はその道場で柔道を指導していると、大東流の大家がこの場所に来ると言うことで、興味半分に堀川先生の指導を観覧したことが初めてでした。筋肉隆々の武々しい武道家を描いていたが、150センチそこそこの老人の出現に驚きかえって只事ではない興味をそそられました。

・『堀川先生は大正2年父泰宗が、代理教授を受けた年から、大正4年迄の2か年ほどの武田先生の指導から、大正3年の教授代理を受ける等今日の名人位免許皆伝堀川幸道先生が大成された。大正6年小学校の正教員となり北北海道各所の小学校に奉職され、惣角先生はその奉職先の学校をおとづれて幾日か滞在し、大東流の奥儀を伝えていた。昭和6年奥儀4本をいただきこの関係は昭和7年頃迄続けられていた。やがて惣角先生より免許皆伝を受けた(昭和18年4月25日教授の途中の青森市の旅館で客死された武田惣角先生の遺志により昭和25年6月子息時宗氏より免許皆伝を受けている一注米沢)堀川先生は、幸道会を創立し自ら会長となった。高齢かくしゃくとして札幌・室蘭・滝川・湧別・北見に合気柔術の稽古をつけて回っておられた』祝還暦 堀川幸道先生略歴一 神尾庄治著』・という訳でその時すでに4段迄の段を持つそうそうたる10年弟子が10数名稽古をつけてもらっていました。

柔道と違って合気を使つての技の切味は体力の限界を感じていた私にとっては願ってもない技であると感じました。その技の切味は見事ですすぐにでも真似てみたい誘惑にかられました。『この流儀は非常に覚え易いから他人の前で決してやらなかった(昭和6年 武田先生とのインタビューより)』と惣角先生自らが言われた所以が理解できます。

狭い教員宿舎にお呼びして、なけなしの俸給の多くをはたいて、惣角先生に泊まっていただき教えを乞うた、と言われた堀川先生に習って私も早速月に1度室蘭に指導にこられる際には、我家にお招きして個人指導を乞うた。甘い菓子等をにこにこして召上がりながら自分と惣角先生との四方山話をなされ、『先生は文字というものを一切お読みにならなかったのが新聞を見る事もなく只甘いものがお好きで、来られるときはいつも羊かんを用意していた』等と話された。

練習は毎回毎回座取りの繰返しで、若い私には飽き足らず広い道場を持ちたい願がつのつたが、その後道場を持つようになって先生は座取りの重要さを力説し『これがすべての技の基本である』と、やはり座取りを繰替された。

同じ型の繰返しの練習の中でも、力にはやる若い者が飛掛かっていっても、その力の入れよう、方向等によって柔らかに自由に体を小さく回して嘘のように投られるのでした。私が道場を持った昭和50年頃には先生は足がすっかり弱られて杖と夫人の肩をたよりに歩いていられたが、稽古着を着てすくっと立たれると、急に大きく岩のようになられたのが印象的でした。

先生は1対1の人格的な交わりの中での指導を大事にされ、指導の合間には絶えず、大東流合気柔術の所以を説き、歴史その技の在り方、その合理性と技の数を、又武田惣角先生とのことを繰返し話されました。私もいつも側に居た妻も子供達さえ暗唱してしまうほどの執念深いそのやり方に、安易に 老人の常 と苦笑していた私も今となって大東流合気柔術が、文章や指導書によって受継がれてきたものでなく、師弟の信頼の中から繰返し繰返しその歴史と技の在り方を頭にたたき込まれてきたものだと感じております。

マスコミュニケーションの情報の時代にあつて、合気柔術もその波の中で生き抜かなければなりません、堀川先生が惣角先生より受継ぎ私達にも伝えようとした、人とのつながりと信頼の中での心と技の磨きは大切に残していかなければならない武道の奥儀でありましょう。誠実で篤の厚い教育者として、又偉大な武道家として、北海道の片隅を離れず、周りに集う一人ひとりとの交わりを自分の世界とされた謙遜な先生の影は、この情報過多の時代にあつて 日々薄くなっていく事を憂いているのは私ひとりではないでしょう。

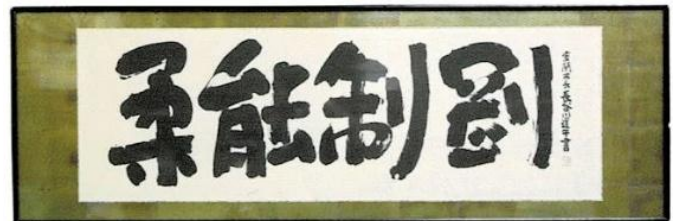
合気柔術に光があてられその筋の文献も多く出はじめるようになりましたが、堀川先生についての経歴の誤りや、それぞれの武道家の記す系図の書き改めの中で、堀川先生が時流に乗っていく人々の蔭になっていくのを、堀川先生に手を握られ心を傾けていただいた弟子の一人として義憤にかられる事の多い此頃であります。大東流柔術がこのように日の目を見ることになった時代の要求は、堀川先生の大切にされた心と技がその求められるところとなっている からののではないのでしょうか。

牧羊館開設頃のスナップ

輪西大沢に新築して二年後、新団地白鳥台に住んでいた佐藤夫妻須川夫妻に白鳥台に道場付きの家を新築するように切望されました。柔道を習う子は、責任を持って集めてくれるという。熱心なクリスチヤンの友人仲間は、道場でミSSIONの幼児教育と、日曜学校の児童教育をすることを望んでいたのです。地域と結びついた道場を持つ事は米澤の夢でした。道場の新築以前から、「畳二枚あれば合気は出来る」と、堀川名人は月に一度北見からやって来て泊りがけで、本当に畳三枚の部屋で個人指導をしてきていました。当時勤務先の鶴が埼中学校は荒れていました。力を持て余している生徒を集めて柔道部で昇華させようと暴れ坊主が半強制的に柔道部に集められました。名人は喜んで合気柔術の指導をしてくれました。道場新築初めに頂いた巻物一卷は、何もみずにサラサラと表紙の上に筆で書きあげてくれました。字を書かなかった武田惣角の代筆をしていたというのがよく分かりました。



開設時から掲げている看板



開設時に頂いた書
作者 元室蘭市長 長谷川正治様



米澤宗師師範の師匠
堀川幸道名人 弟子たちへの最後の稽古



堀川幸道名人の手形



武田 惣角 1859(安政6)年～1943(昭和18)年
秘伝とされていた合気柔術を明治以降初めて世に知らしめた人物。
堀川名人は武田惣角の直弟子。
暴れ者で寺子屋の師であった父にしかられ、以来、字を書くことを拒んだといわれる。
堀川名人の話でも武田惣角は名人の教師宿舎を宿として何日も泊まれるが、酒も飲まず新聞も読まない人で接待に困ったとよく話してくれた。
ただ甘いものが好きで、羊羹さえ用意しておけば上機嫌だったという。



堀川 幸道 1894(明治27)年～1980(昭和55)年
青年の頃より父から柔術を学びはじめ、1914年に武田惣角に入門。
たびたび武田惣角の訪問を受け、その陶冶を受け、大東流合気柔術の秘術の数々を伝授される。「秘伝目録」「秘伝奥義目録」「秘伝合気奥義目録」などを授かる。
かなりの近眼で過去に悲しい思いをしたが、札幌でメガネに会い、世の中はこんなに明るいものなのかと、嬉しがっていたという。

北米牧羊館セミナーの状況



アメリカ支部において
2m近い大男を次々と投げる米澤克己師範



アメリカ支部に直筆の看板を寄贈した
牧羊館顧問 森清光氏

カリフォルニアから始まった合気柔術は、中央アメリカ、東部ニューヨーク・ハーレムの近くのブロンクスに達しました。ブロンクス道場は、屈強のつわものがそれぞれ入り口で、足元や、腹から、カーボーイのようにピストルを取り出して大きな金庫に預けていました。セミナーが終わり外に出て見ると、ティンエイジャー数人車の上でジャンプしてお金をせがんでいます。セミナー参加のつわものは一括で追いかけてきました。柔術は自分を守るためのセルフディフェンスであることを実感しました。色とりどりの帯を締め、何がしかの免許皆伝を名乗る人々に技を伝えるのは、技だけでなくそれを上回る気力が必要だったことでしょう。のしかかるように抑えてくると、骨がギシギシ音を立てるようでした。力いっぱい抑え込ませて、「今の力でもう一度かかって来い」次の瞬間相手の力を使って投げ飛ばすと、馬鹿にしていた態度が一変して敬服を示してきます。肩書きが通用せず実力の世界です。このように沢山のアメリカでの道場セミナーが続きました。その中から道場に何ヶ月も居住し弟子入りする者も現れ、牧羊館道場を活気づけてくれました。

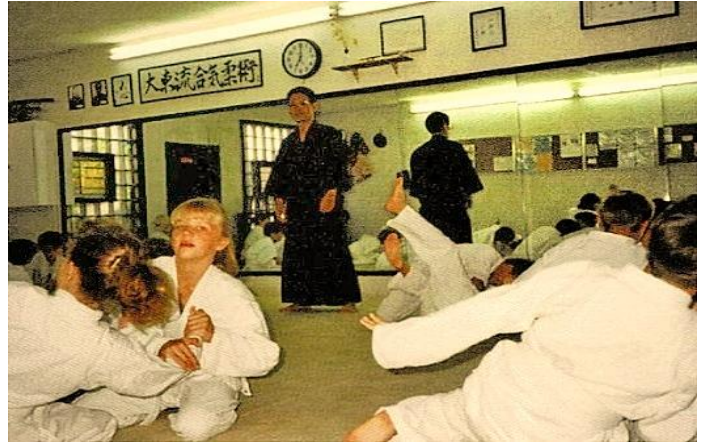


米澤克己師範を迎えたアメリカ支部の集合写真



ドイツセミナーの状況

1988年文部省派遣教師としてドイツのミュンヘンに赴任して間もなく、世界に発信している武道誌で米澤のドイツ赴任を知った現中島師範がはるばるミュンヘンまで訪ねて来てくれました。中島師範はすでに神氣流道場を持っておられました。赴任した学校の体育館に畳を入れて子どもの部、大人の部と合気柔術のクラスを創りました。中島師範の道場でミュンヘンの部員を引き連れてセミナーをしたり、アメリカから現チム師範が駆けつけて日本人会新年会で演武を披露したこともありました。



子供たちの練習風景



若き日米澤夫妻(ミュンヘンにて)



日本語補習学校の同僚と記念写真



日本語学校米澤氏を囲んでパーティー



米澤克己師範を迎えて集合写真

牧羊館10周年頃の状況



牧羊館道場創立10周年記念柔道・大東流合気柔術鏡開き大会 1985年1月13日

新団地白鳥台は、若い親が子どもを道場につれてきました。その中に柔道の心得のある親を見つけると協力を求めました。道場設立に力を貸してくれた義弟森清光を中心に手伝ってくれる親が現れました。河上清治先生、少し後に今井幸雄先生、警視庁の機動隊だった屈強な実力者平勝彦先生等々...河上先生は、20周年まで道場を作り上げてくれました。

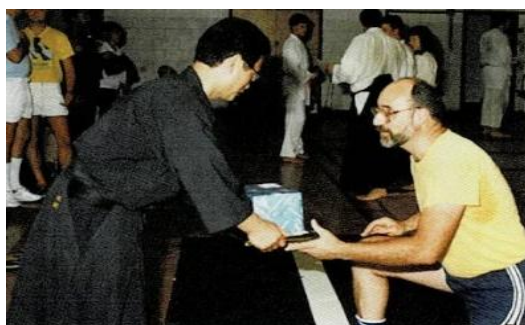
今井先生はその初めから30周年40周年と牧羊館道場の精神を引き継いで指導してくれました。入院先の病院から通ってくれた事さえありました。奥さんの紀子さんは先生が仕事で遅くなる時、冬の寒い時等道場を温めたり、柔軟体操の指導までして助けてくれました。



歓迎パーティーを受ける



アメリカ支部での練習風景



弟子たちからの贈り物



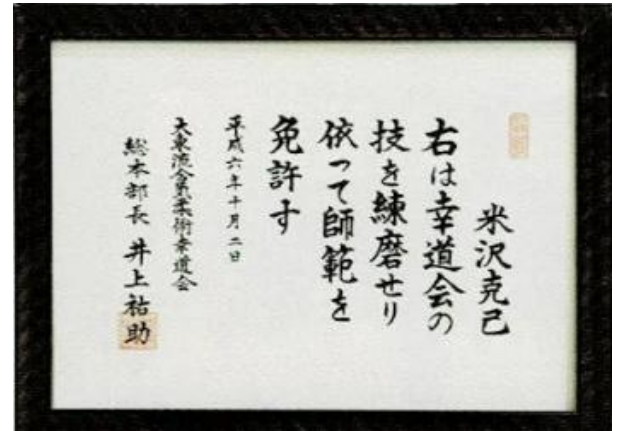
アメリカ支部との集合写真



当時の記念誌

牧羊館20周年頃の状況

大東流合気柔術幸道会より、大東流合気柔術牧羊館として独立を北見本部の井上聡本部長に願い出て、快く受け入れて頂きました。幸道会に残った河上先生は牧羊館道場から身をひかれました。その中で今井先生は、変わらない日常の道場指導を続けられました。宗師米澤は、帰国後も道場を離れて転勤生活です。人材発掘の技、託して託された人に成長してもらう術に優れています。不在の中でも道場は安定して運営されました。開設当時から指導者は全くのボランティアです。少しでもお金が払われていたら続かなかったと指導者の皆さんが言われます。武道の心意気でしょう。団地の子どもたちは成長して少なくなりはじめました。



大東流合気柔術幸道会の師範を受ける



柔道の子供たちと記念写真



20周年記念祝賀会
中央は元新宮市長



堀川名人13回忌 左側は現米澤館長



牧羊館顧問 故 森清光の挨拶で始まる



皆さんから頂いた寄せ書き



20周年本部道場でアメリカ支部と合同練習



米澤克己宗師とドイツ支部の皆さん

牧羊館30周年頃の状況



30周年記念で製作した館旗

平成17年5月28日 洞爺パークホテル天翔にて

1998年5月道場の柱だった森が天に召され、最後の日まで道場で技を伝える使命に燃えていた宗師が11月召されました。当時の館員は今も直線的で合理的な無駄のない宗師の技を彷彿とさせます。

館長を失ったにも関わらず、牧羊館は平常に活動しました。道場を不在に駆け回り、日曜日の柔道大会は任せっきりで教会に通い、午後からチラッと顔を出す館長でしたが、日常的に不在の中の存在を創り出してきたのでしょう。不在を感じないので道場は続きましたが、子どもたちはほとんど少なくなりました。

けれどもやがて、今井紀義さん、藤田直幸さん等、牧羊館で育った子どもたちが親になり、その子ども達を連れて道場に戻ってきて指導者になりました。

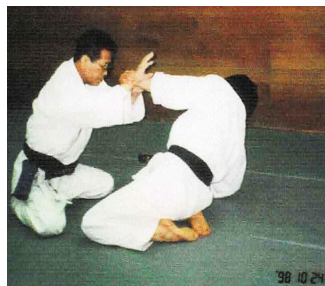
30周年記念式典は元気な力で盛り上がりました。



30周年記念において
中島師範に感謝をこめて記念品を送る



米澤克己宗師
癌におかされながらも指導する



病院から稽古場にかけて
腰にはモルヒネが



30周年中島師範を迎えて記念写真



北海道教育委員会から表彰を受ける
米澤克己宗師



本部道場にて
中島師範の指導を受ける



30周年記念演武アメリカ支部

牧羊館40周年頃の状況

牧羊館設立から40年、牧羊館は、人の人生の働き盛りを越えて来ました。関わってきた指導者も天に送りました。屈強な平先生、いつも必ず傍にいて指導してくれ、病の中でも当たり前のようにいてくれて指導してくれた今井幸雄先生も2014年の鏡開きには皆と一緒に雑煮を食べ講評をしてくれたその10日後に召されました。けれども牧羊館はそれらの指導者の不在を乗り越えた存在に包まれて今日も活動を続けています。



2014年鏡開き米澤館長の挨拶



2014年柔道・合気柔術鏡開き



40周年に向けたドイツ支部の練習風景



中島師範をお迎えしたセミナー風景



中島師範をお迎えしセミナーを行う



牧羊館創立40周年記念式典・祝賀会 集合写真

牧羊館50周年頃の状況

2017年には市内のラジオ局に出演、ドイツから来日した中島師範セミナーを牧羊館本部道場での開催、2019年にはドイツ人留学生を招いてのセミナー開催と、2020年には村瀬達也氏が師範となりました。

50周年に向けて順調に滑りだしたかと思われましたが、2020年にはコロナウイルスの蔓延により、牧羊館道場も自粛を余儀なくされました。一時期はどうなる事かと思いましたが、徐々に落ち着きを取り戻し、2023年には6年ぶりとなるドイツから来日しての中島師範によるセミナーの開催、柔道の納会も4年ぶりに開催され、2024年の鏡開きでは祝宴会もできるようになりました。

今までの何気ない日常がいかに尊いものであるかを感じられる年となり、コロナ禍の影響を受けながらも、牧羊館は着実に歩みを進めてきました。



ドイツ人留学生を招いてのセミナー



2023年 牧羊館本部道場でのセミナー 年齢を感じさせない姿を見せる中島師範



ドイツから贈られたレリーフ



鏡開きで講評をする村瀬師範



コロナ禍が落ち着き、4年ぶりとなる懇親会

2025年 第50回鏡開き 合気柔術演武



2025年 第50回鏡開き 懇親会 集合写真



牧羊館柔道名誉師範 今井幸雄 略歴



1943～2014

牧羊館柔道名誉師範 今井幸雄

- 1943年 3月1日壮瞥町で出生する。
- 1979年 牧羊館柔道の新指導者として任命され体制強化を図る。
- 1981年 日本スポーツ少年団指導員に認定される。
- 1990年 米澤克己館長より功労賞を受賞する。
- 1992年 北海道スポーツ少年団本部より功労賞を受賞する。
- 1998年 米澤克己館長の死去により米澤弘光新館長を補佐するため館長代理に就任する。
- 2003年 胆振支庁を定年退職し牧羊館の指導に専念する。
- 2004年 講道館五段を取得する。
- 2005年 室蘭柔道協会副会長に就任する。
- 2014年 1月25日癌のため死去(享年70歳)

牧羊館創設50周年に寄せて 今井紀義

～残りつづけるために～

牧羊館道場創設50周年、おめでとうございます。心よりお祝いと、創設者であります故米澤克己館長に感謝を申し上げます。

私が牧羊館に入門したのは1979年ですから、46年間お世話になっていることとなります。10周年の時にも申しましたが、今の私が牧羊館柔道の代表として活動させて頂き、父の偉大さ、母の優しさに、愛情と尊敬の意を示し続けることができているのは牧羊館の存在のお蔭だと、心より感謝しております。



1997年5月、米澤克己館長は癌の告知を受けましたが、その後も道場に立ち続け、門下生たちへの指導に力を注いでいた姿が今でも目に焼き付いています。牧羊館の行く末を心配した孝子さんは、「道場はどうするの?」と問いかけると米澤克己館長は、「ダメなものは無くなる、残るものは残る」とおっしゃられたそうです。

翌年の11月27日、無念にも米澤克己館長がご逝去されてしまいました。その後、父であり師である今井幸雄先生が牧羊館柔道を守り続けてきましたが、2011年7月、今井幸雄先生が癌の告知を受けることとなります。米澤克己館長と同様にその後も道場に立ち続け、子どもたちの指導に力を注いでいましたが、2014年1月25日、無念にもご逝去されました。

米澤克己館長がご逝去されてから27年の月日が経ちましたが、最後に残されたお言葉通り、今も尚、牧羊館は存続しております。

牧羊館は今終わるべきではないという強い信念を持ち、現米澤弘光館長、藤田直幸主任コーチと共に力を合わせながら、お互いが出来る限りのことをして牧羊館をなんとか守り続けています。今では教え子だった清水美小夜コーチも加わり、父母の会の皆様のご協力を頂きながら、現在も子どもたちの健全育成のため、日々楽しく活動させて頂いております。

牧羊館では「忍耐・練達・希望」を目標に掲げています。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生み出します。牧羊館に通う子どもたちが心と体を鍛え、みんなが協力して助け合いながらよりよい社会を目指す「精力善用」「自他共栄」の精神を身に付けられる場所として、この牧羊館がいつまでも残りつづけられるようつながりを大切に、私も更なる精進をして参ります。

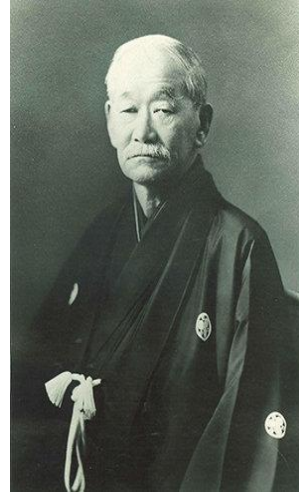
日頃より牧羊館の子どもたちを温かく見守ってくださっている地域の皆様、室蘭地区柔道連盟の皆様、その他多くの関係者の皆様には、ご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。今後とも倍旧のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、牧羊館で育った子どもたちが、社会で大いに活躍をしていることを心から嬉しく思うと共に、牧羊館に在籍している子どもたちの更なる飛躍を、大いに祈念しております。



2025年3月 牧羊館柔道 集合写真

牧羊館柔道開設頃の状況



嘉納治五郎先生遺訓

柔道は、心身の力を、最も有効に、使用する道である。

その修行は、攻撃防禦の練習に由つて、身体精神を鍛錬修養し、斯道の神髓を体得する事である。

そうして、是に由つて、己を完成し、世を補益するが、柔道修行の究竟の目的である。



牧羊館柔道10・20周年の状況



10周年記念集合写真



鏡開き後の懇親会



パトリック氏と共に記念写真



真剣なまなざしの子どもの頃の米澤館長



子どもたちの練習風景(固めの形)



20周年記念祝賀会の写真

牧羊館柔道30・40周年の状況



30周年に制作した柔道の館旗



平成20年青少年団体活動者表彰を受ける



30周年アメリカ支部の仲間と洞爺湖観光



30周年記念演武大会



鏡開き 昇級審査を受けた子どもたち



今井幸雄副館長の指導を受ける子どもたち



柔道地区大会にて大健闘



2012年柔道・合気柔術鏡開き集合写真

牧羊館40周年記念『柔道大会』の様子



投げの形の様子(肩車)



投げの形の様子



紅白試合(小学生の部)



講評をする今井紀義団長



室蘭民報 2015年5月18日



紅白試合(小学生の部)

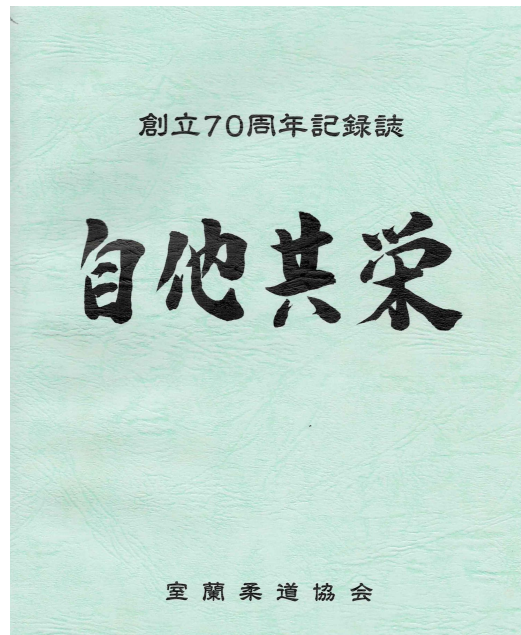


紅白試合(高校生の部) 今井親子3人

牧羊館柔道50周年の状況



2024年、4年ぶりとなる柔道の納会
コロナ禍が落ち着き、活気を取り戻してゆく



室蘭柔道協会70周年記録誌



鏡開きでの柔道 打ち込み



コロナウイルス感染対策のため、
マスクを着けての稽古が見慣れた光景に

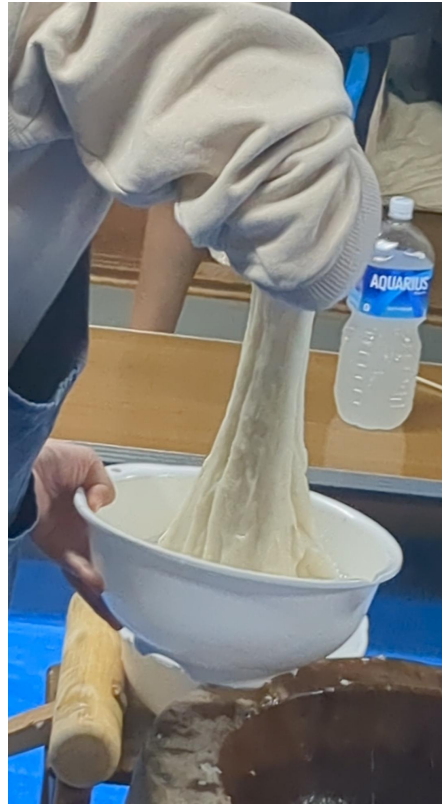


柔道の形(かた)の大切さを説く
今井紀義団長



2024年
牧羊館柔道 夏合宿

2024年 牧羊館柔道 納会



2025年 第50回鏡開き 柔道 紅白試合



柔道を通じた金メダル

わが職場の有名人は生産課の今井紀義さんです。今井さんの実家は柔道一家であり、中高では数々の大会で優勝をするなど活躍し、自宅には今でもメダルやトロフィーが多く並んでいるそうです。現在は忙しい中、地域の道場を手伝い子供たちに胸を貸し、時には学校の先生に正しい教え方を指南するなど社会貢献に努めておられます。試合に勝つだけがスポーツではないと武道の精神を伝え、人生の金メダルを取れるよう子供たちを指導しています。



この記事は、私が勤務している会社の社内新聞に載った記事です。私はサラリーマンで時間が自由に使えるわけでもないため柔道の指導をすることを断念する事も考えた時がありましたが、上司や仕事仲間が理解して頂きここまでやってくることが出来ました。

牧羊館柔道団長 今井紀義



牧羊館

0143-59-5438

〒050-0054 北海道室蘭市白鳥台2丁目35-16

牧羊館ホームページ

https://peraichi.com/landing_pages/view/bokuyoukan



2025年 第50回鏡開き 昇給授与



協賛企業一覧

企業名	代表者氏名
アビリティー	代表取締役 菊地智
有限会社 オートスタイル・ケー	代表取締役 桂正彦
カバサワテツヤ株式会社	代表取締役 梶澤 哲也
居酒屋 哲屋	代表 笠原勇輝
冷凍食品専門店 かまくら	室蘭市中島町4丁目5-5
キタテツ 北山漁業	代表 北山信一
株式会社 耕電設	代表取締役 千葉昌子
CP-KONG	代表 早川雅貴
NPO法人 こどもの森幼保園	園長 森貞子
佐々木機工株式会社	代表取締役 鈴木俊光
SHIBATA HAIR SALON	代表 柴田大
札幌北宮株式会社	TEL 011-612-1675
島松病院	医局長 高平充
株式会社 神栄工機	代表取締役 児島克己
株式会社 住まいのウチイケ	代表取締役 内池秀光
高橋衛生工業株式会社	代表取締役会長 高橋邦夫
株式会社 高橋管工舎	代表取締役会長 高橋哲夫
高橋清掃株式会社	代表取締役 高橋伸介
株式会社 西谷硝子	代表取締役 西谷学
株式会社 日昇堂	代表取締役 金濱元一

協賛企業一覧

企業名	代表者氏名
ハイ・ミート たなか	代表取締役 田中健太
肉にく亭	代表取締役 田中健太
ファースト・スター株式会社	支店長 成田貴洋
福の木	代表 福田正治
プラザクボ	代表取締役 久保圭司
株式会社 豊昇建設	代表取締役 中澤豊
本所工業株式会社	代表取締役 本所光男
協業組合 室蘭清掃管理センター	代表理事 高橋伸介
室蘭柔道協会	会長 阿部誠
株式会社 めもりある 雲上閣	室蘭市寿町3丁目-16-3
森整骨院	院長 森琢磨
山田機械工業株式会社	TEL 0143-84-4540
株式会社 友和商事	代表取締役 平山慎一郎
渡辺パイプ株式会社	TEL 0143-47-8083
米澤整骨院	院長 米澤 弘光

八

牧羊圖